



GPS人流データの活用

「小樽市観光入込調査 デジタル技術活用業務」について

小樽市が初めてデジタル手法による観光入込数の調査「小樽市観光入込調査デジタル技術活用業務」を行いました。今回はその調査結果の概要をご紹介します。

従来の観光入込調査

小樽市では昭和35年度から観光入込調査を実施しています。これは市内の主要観光施設等の入場者数をもとに推計しているもので、国のガイドラインに沿った全国各地で行われている方法によるものです。しかしこの方法では入込総数を推計できても、観光客がどこから来た人なのか、あるいはどここの国の人なのかを個別に知ることは出来ませんので、過去の調査の結果を勘案して、道内客と道外客とに分けています。また、増加している外国人観光客（インバウンド）については入込総数も国・地域別の居住地も把握できず、宿泊施設からの聞き取りにより、おおよその人数等把握をしていました。

初めてのデジタル活用

これまで観光入込調査ではわからなかったことを、デジタル技術を活用して把握する試みが今回の

調査です。調査対象の期間は令和6年1月から12月までの1年間で、民間企業が提供する「全国インバウンド統計」というサービスを活用したものです。基本的にはGPSの位置情報を使用した調査で、調査結果は小樽市のホームページで公開されています。



小樽市HP

当所がコロナ禍前の三カ年実施したモバイル空間統計は、インバウンドの国・地域別の総数を把握することを目的に行いましたが、今回、市では、インバウンドに加えて日本人観光客の居住地別で調査を行いました。また、日本人（道内・道外）、東アジア、東南アジア、欧米豪の区分けで、それぞれ小樽を訪れた時間（来訪時間別入込数）や滞在時間、来訪時の利用交通手段、小樽の次の周遊先についても把握しました（表1）。ただし、中国人の入込数については国情等のため、GPS人流データを把握できないことから、新千歳空港の出入国管理統計から東アジア諸国地域（台湾、韓国、香港）と中国人の比率を算出したうえで、小樽

を訪問した東アジア諸国地域の人数にその比率をかけて推計しています。

調査項目	区分
①入込数	日本人(居住地)、インバウンド(国・地域別居住地)
②来訪時間別入込数	日本人(道内・道外)、東アジア、東南アジア、欧米豪
③宿泊人数	
④滞在時間	
⑤利用交通手段	
⑥周遊先	

表1 GPS人流データ調査項目

調査結果の概要

令和6年1月から12月までの1年間の観光入込数については、表2のとおりです。公開されている資料では一ヶ月単位で数値が示されています。総数75万8千547人のうち、インバウンドが13万4千518人で全体の18.1%を占めていることがわかりました。これは道外日本人観光客よりも多く、小樽観光におけるインバウンド対策がいかに重要かを示しています。なお、居住地別では表3のとおりです。

区分	入込人数	割合
総入込全体	758万5471人	100.0%
うち道内日本人	535万3177人	70.6%
うち道外日本人	85万7776人	11.3%
うちインバウンド	137万4518人	18.1%

表2 小樽市の観光入込数(令和6年1月~12月)

国・地域別	入込人数	割合
韓国	57万6713人	41.9%
台湾	50万9949人	37.1%
香港	9万1617人	6.7%
中国	7万7328人	5.6%
タイ	3万0681人	2.2%
インドネシア	1万3206人	1.0%
シンガポール	1万1345人	0.8%
ベトナム	1万0911人	0.8%
オーストラリア	7827人	0.6%
その他計	4万4941人	3.3%

表3 インバウンド居住地別

区分	宿泊人数	割合
宿泊人数全体	87万7184人	100.0%
うち道内日本人	30万8689人	35.2%
うち道外日本人	21万0971人	24.1%
うちインバウンド	35万7524人	40.8%

表4 宿泊人数

また、宿泊人数については表4のとおり、総数が87万7千184人に対してインバウンドは35万7千524人と全体の40.8%と大変高い割合になっています。さらに、日本人（道内・道外）、東アジア、東南アジア、欧米豪で比較した時に、それぞれ特徴が見えてきました。

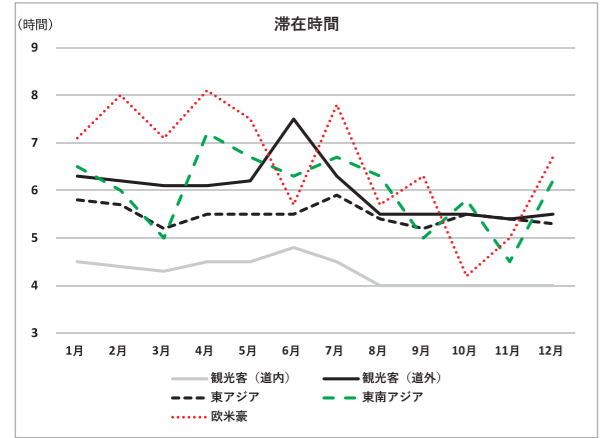


表5 滞在時間

まず、「来訪時間帯」について、日本人に比べてインバウンドは9時14時台に来訪が集中する傾向がありました。特に東南アジアは夏季、欧米豪は春先にそれぞれ15時以降の来訪が多くなっていました。また、「滞在時間」(表5)については、最も短いのが道外日本人でした。東アジアも二番目に短く、宿泊者数も少ない短期滞在傾向となっていました。東南アジアや欧米豪は東アジアよりも滞在は長いものの、3月、6月、9月、11月は落ち込む傾向が見られました。「来訪手段」は、JRと自動車(マイカー、レンタカー、バス)で

ほぼ占められます。東アジアや東南アジアは一年を通して自動車の利用が多いですが、欧米豪は10月、12月を除いてJRの利用が多いことがわかりました。最後に「周遊先」ですが、欧米豪は道北や上川、オホーツク、根室といった自然豊かな地域を周遊していることに特徴がありました。今回の調査では市街中心部、天狗山、祝津・高島・手宮、銭函・張碓など市内に8エリアを設けてどういった人の流れになっているのかもデータを収集しており、日本人、インバウンドの間でエリアごとに訪問人数や滞在時間などに異なる興味深い結果が得られています。

活用のしくみ

今回得られた調査結果はどなたでも自由に市ホームページから取得して使用することができます。市では従来の観光入込調査に加えて令和7年度も引き続き、本調査を継続していくこととしており、調査結果を月ごとに随時公開していく予定になっていますので、業種を問わず、多くの方々に活用していただければと思います。